

2025年度業務実績報告書

提出日 令和8年 1月 21日

1. 職名・氏名 学術教養センター 教授 石丸香苗

2. 学位 学位 農学博士、専門分野 森林生態学、授与機関 京都大学、授与年 2005年

3. 教育活動

(1) 講義・演習・実験・実習	
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 導入ゼミナール(なぜから考える科学) (2 単位) 1 年
②内容・ねらい（自由記述） 自然科学・社会科学ともに、科学の基本は疑問を持って、それを確かめたいという気持ちから始まります。このゼミでは、なぜ?の気持ちを持つ練習をします。目標①なぜ?という気持ちを持つことに慣れる②なぜ?と思った事について調べる力を身に付ける③なぜ?から真実に至るプロセスを正しくたどれる力や方法の基礎を身に付ける。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 今年度から利用開始になったアクティブ・ラーニング室を利用して、ディスカッション・グループワークやフィールドワークなどを積極的に取り入れた。導入ゼミの共通資料や共用図書ができたので、それらも積極的に活用した。図書館の利用も積極的に行い、自主性を重視した授業開発を行った。また、新入生の履修登録漏れなどがないよう、例年以上に履修指導を丁寧に行った。 【ゲストスピーカー 0 人】 【フィールドワーク等 2 件】	
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 教養ゼミナール(エシカルな社会を考える) (2 単位) 1 年
② 内容・ねらい（自由記述） 途上国や格差など、社会問題の根幹にある原因や、自らの行動により引き起こされる結果を想像し、より倫理的(エシカル)な社会のあり方を考えます。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 講義室だけではなく、図書館や情報演習室なども含みながら、ゲーム形式のシミュレーション、チームに分かれたディベート、グループディスカッションや個人のワーク、プレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れた。また、文献調査・文献管理ソフトの使い方、レポート作成やレジュメの作り方、スライド作成の時に配慮すべきコツ、メールの書き方など、専門課程において学業に必要な知識や技能を身に付けられる内容にしている。 【ゲストスピーカー 0 人】 【フィールドワーク等 2 件】	
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 地理学(2 単位) 全学年
②内容・ねらい（自由記述） 地理学は自然や社会を「空間」という視点から扱う、幅広く柔軟性の高い学問である。本授業では地質や気候などの自然や資源、人間の生業や文化などが、空間という視点からどのように関係づけ、整理・分析され、傾向や真実を見出すことが出来るのかを学ぶ。	

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

地理の情報を得るだけではなく、情報を空間的に整理してものごとを理解・推測できるような力を得られるように、授業の合間に小テストや質問を挟んでいる。小テストとふりかえりには毎回コメントを付して返却し、学習ポートフォリオとして期末レポートの参考に役立つようにしている。授業には折り紙を使った地形図の理解や、ビデオなど、飽きずに理解しやすい工夫をしている。また、取り上げる話題も、福井や海外、身の回りの事柄から世界の生活、宗教や言語と地理学など多岐にわたる分野を扱い、地理学のコンセプトが理解できるようにした。授業は講義形式以外に兼定島でのフィールドワークや、世界が100人の村だったらワークショップなど、体も動かせるタイプのアクティブ・ラーニングを取り入れた。

【ゲストスピーカー 1人】

【フィールドワーク等 3件】

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

南米の社会と環境(永平寺キャンパス対象対面授業)(2単位) 全学年

② 内容・ねらい（自由記述）

環境問題の生まれる原因には、社会の様々な要因が関係している。よって環境問題の解決には、社会の根本的な規範の変化や消費行動の見直しなど人間の積極的な関与が必要になる。同時に問題の原因の究明のためには、その社会構造・経済状況・自然地理・歴史といった、その問題が生みだした様々な背景について理解しなくてはならない。本科目では、ブラジルという偉大な資源と自然を擁する大国をテーマに取り上げ、人間の社会が環境問題にどのように結びついていくかについて考える。また、ブラジルをとおして、環境が人の文化や風習に与える影響についても考える。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

論理的思考力を持つ・授業内容への興味を持たせることを目的に、講義前に小テストを行っている。テストは正解・不正解ではなく、得られた情報からどう考えて判断したかを評価する。先住民族の工芸づくり体験、ブラジルの福井村で国際協力に関わったゲストスピーカーによる現地のお話などを行い、アクティブ・ラーニングを取り入れて設計している。

【ゲストスピーカー 3人】

【フィールドワーク等 0件】

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

専攻演習 地域資源論演習Ⅰ(2単位) 経済学研究科修士1-2年

② 内容・ねらい（自由記述）

自然や人、景観などを含めた地域資源利用に関する知見を深めるため、文献での学習とフィールドワークを併用する。参加者・教員間のディスカッションを中心に進める。地域の資源利用の全体像を理解する。地域の文献から適切に情報を収集する方法を身に着ける。質的・量的データの収集方法を身に着ける。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

参加者の選んだ参考文献をテーマにしたディスカッションを中心として行った。反転授業として、学生に授業前に必ず当該箇所を読んでおくことを課したので、ディスカッションに長く時間を割けた。実際にアンケートを作成し学内で実施させたことで、量的・質的データ収集の基礎についても実践的に学んだ。フィールドワークを積極的に行い、自主的な調査の能力の涵養に努めた。

【ゲストスピーカー 0人】

【フィールドワーク等 0件】

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

専攻演習 地域資源論演習Ⅱ(2単位) 経済学研究科修士1-2年

② 内容・ねらい（自由記述）

修士論文作成に必要な知識や技能を身に着けるとともに、それをとおして修士論文計画

を自律的に立てる能力を身に着ける。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） インタビュー調査、アンケート調査、データ解析、文献調査、スライド・レジュメ作成などのコツやポイントなど、必要だがしっかりと身に付けていない部分に注目し、具体的な対策を中心に綿密な指導を行っている。 【ゲストスピーカー 0人】 【フィールドワーク等 0件】
(2) その他の教育活動
- 食農環境実習Ⅰ・Ⅱ(創造農学科) 協力教員として森林実習とデータ解析を担当 - 経済学研究科研究科メンバー - 創造農学科の修士課程学生一名の研究指導を行っている(週に3コマ分のゼミを開催し修論研究指導を行っている)

4. 研究業績

(1) 研究業績の公表
① 著書 【0本】
② 学術論文（査読あり） 【0本】
③ その他論文（査読なし） 1. アンデス・アマゾン学会研究大会要旨集 【1本】
④ 学会発表等 1. Tendencies of Forest Area Loss in the Amazon and Peasant Production: A Comparison of the Lula and Bolsonaro Administrations Kanae Ishimaru. Transformation Community/Earth System Governance 2025, Johannesburg, South Africa 2025年8月16日 2. ボルソナロ政権期のブラジル土地改革と小農たち. 石丸香苗. アンデス・アマゾン学会ー第14回研究大会(2025) 2025年7月6日 【2件】
⑤ その他の公表実績 1. Cupula dos povos 報告. 石丸香苗. 「COP30 ブラジル・ベレン報告シンポジウム」慶応大学法学部. 2026年1月25日 2. 【Science Alert】COP30の結果について. 石丸香苗. 一般社団法人サイエンス・メディア・センター 3. COP30 in Brazil: Episode 5 Regeneration Through Agroforestry - IMPACTS: Climates Change the World NHK WORLD-JAPAN. 【2本】
(2) 科研費等の競争的資金獲得実績
【学外】 (代表)「ESGの世界的潮流は世界の食糧安全保障に危機をもたらすかーブラジルと日本の視座から」日本学術振興会 科学研究費補助金 2024年度 挑戦的研究(開拓) 2024年8月 - 2029年3月. 石丸香苗, 舩方周一郎, 光安光江, 吉川紗耶花, 徳地直子, 佐野聖香, 洲上ゆかり, 藤澤奈都穂 (直接経費1970万円) (分担)「多面的機能を考慮した福島森林再生のための総合的評価手法の開発」日本

学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(A) 2024年4月 - 2029年3月 島田 洋子, 石丸 香苗, 大手 信人, 張 曼青, 徳地 直子, 原田 浩二, 洲上 佑樹 【学内】 ・ (分担)「越前和紙産業の持続と発展に必要なネリ原料植物の県産化～栽培技術開発と新品種開発の試み」 福井県立大学 戦略的課題研究推進支援 2025年5月-2027年3月
(3) 特許等取得
なし
(4) 学会活動等
・ アンデス・アマゾン学会 運営委員・編集委員

5. 地域・社会貢献活動

①-1 委員就任(国) ・ 内閣官房 水循環政策本部, 水循環アドバイザー ・ 九頭竜川流域懇談会, 委員 2024- ①-2 委員就任(県) ・ 福井県 森林審議会 委員 2002- ①-3 委員就任(県) ・ 大野市 おおの森づくりプラン策定委員会 委員長 2023- ・ 南越前町 名勝「おくのほそ道の風景地 湯尾峠」保存活用計画策定委員会 委員 2023- ⑥ 大学間あるいは大学等後期要請の強い団体との共催事業等 ・ 全国ダイバーシティネットワーク北陸ブロック委員

6. 大学運営への参画

(1) 補職
・ 学生部長 2023- ・ 保健・学生相談センター長 2023- ・ 副学長(学生支援・ダイバーシティ推進担当)
(2) 委員会・チーム活動
・ 学生支援委員会 委員長 2023- ・ 保健・学生相談センター運営委員会 委員長 2023- ・ 教育研究審議会 委員 2023- ・ 教育研究委員会 委員 2023- ・ ハラスメント等人権委員会 委員 2019- ・ 文系新学部(仮称)準備プロジェクトチーム会議 委員 2023-
(3) 学内行事への参加
・ 「地域政策学部でイノベーションを学ぶとは」 2025年7月21日
(4) その他、自発的活動など
・ サークル等顧問(学友会、エシカルサークル、CSサークル、ボードゲームサークル、YOLOサークル)